

# 子どもの学びの姿から授業を見直す

静西教育事務所

本県では、一人一人の子どもに「確かな学力」を育むために「子ども理解」と「教材研究」に基づいた「学びの実感」を積み重ねる授業を目指し、「押さえる・仕掛ける・確かめる」を視点とした授業改善に取り組んでいます。

静西教育事務所では、各教員が、そして各学校が「子どもの学びの姿」から授業の課題を明らかにして改善に取り組むことが、最も大切なことと考えています。

授業で大切にしたいことはたくさんありますが、以下の3点は、私たちが学校訪問を通じてあらためて強く感じたことです。これらを手がかりに、まず「子どもの学びの姿」から授業を見直していただきたいと思います。

私たちは、定期訪問・管理主事訪問等で各学校の捉えた課題を共有し、子どもにとって魅力ある授業づくりを一緒に進めたいと思います。



## ◇一人一人の学びの姿に目を向ける

発言する子、つぶやく子、じっとしている子…その子が今どんな学びをしているのか捉えることに力を注いでいますか。

「えっ、どういうこと」「もう少し考えたい」「これでいいのかなあ」「相談したい」が子どもから伝わってきます。

一人一人の学びの姿に目を向けることが、子どもに向けた次の働きかけを的確なものにしていきます。

## ◇一人一人に目的意識や必要感をもたせる

子ども同士で学び合う場において、目的を明確にし、必要感をもたせた上で活動に取り組ませていますか。

子ども同士のやりとりに耳を傾けると、「なんで」「そうか」「でも、こうじゃない…」など行きつ戻りつ仲間とともに考えている声が聞こえてきます。

目的意識や必要感があることは、自分たちでたどり着こうとする姿につながっていきます。

## ◇子どもの姿を思い描いて授業を構想する

教材を学ぶ意味や魅力を明らかにし、目標を達成した子どもの姿を具体的にイメージして、授業を構想していますか。

子どもの姿を思い描いて、考えを巡らせると「この資料提示はどうだろう」「どんな問いが生まれるだろう」「解決の糸口となるものは何だろう」などと、子どもの学びを見通した授業が構想されていきます。

## あなたの授業には、子どものどんな姿がありますか



# 子どもの学びの姿から授業を見直す

～「主体的・対話的で深い学び」に向けて、改めて大切にしたいこと～

これからの授業づくりで大切にしたいことは何だろう。



それは、県がこれまで取り組んできたこと、そして次期学習指導要領でも重視されている、学ぶ側に立った授業づくりです。

子どもは自ら学ぶ力をもっています。だからこそ、子どものもっているものを引き出し高める授業づくりを進めましょう。

H29 授業改善メッセージプラスでは、H28 年度版「子どもの学びの姿から授業を見直す」で示した三つの手がかりについて、具体的な例を挙げています。このプラスを使って、先生方が目の前の子どもの姿で語り合い、日々の授業改善を積み重ねていってください。



## 「一人一人の学びの姿に目を向ける」には

例えば、じっとしている子に目を向けてみよう。  
なぜあの子は立ち止まっているのか、子どもの表れの奥にあるものを、見て聞いて感じ取ろう。

## 「一人一人に目的意識や必要感をもたせる」には

例えば、学び合いの前に、これまでの経験や考えを越えて「なんで」「今までと違う」「友達と違う」などと子どもの心が動くように教材と出合わせ、「みんなと考えたい」という思いを引き出そう。

経験や考えを越えてって  
例えばこんなことかな。

じゃあ、話し合う時は…

一人一人に目的意識や必要感をもたせるってどういうことかな。

国語だったらね…

## 「子どもの姿を思い描いて授業を構想する」には

例えば、目標を達成した子どもが、どのようなことを感じたり、考えたり、表現したりすることができるようになるのかをイメージして授業を考えよう。

子どものもっているものを引き出し  
高める授業づくりを進めよう

# 子どものもっているものを引き出し高める授業づくり

～単元や題材など内容や時間のまとまりで考えよう～

授業が終わったあと、学習内容について友達と語り合っている子どもの姿、教師のところへ質問にかけよってくる姿…、このような姿が見られる授業は、魅力的ですね。

子どもはもともと自ら学ぶ力をもっています。「じっくり考えたい」「もっと情報が必要だ」「自分はこうしよう」など、その力を発揮し続けられるように、単元や題材など内容や時間のまとまりで、子どもの学びの過程を見通してみませんか。

次の三つを手がかりに、子どものもっているものを引き出し高める授業づくりを楽しみましょう。

## 子どもの姿を思い描いて授業を構想する

単元の学びを終えて「～ができるようになった」「みんなで学んだから、より分かった」「次はこうしよう」などと実感している子どもの姿を思い描いてみよう。そのためにも、学習指導要領に基づき、その単元で付けたい力を明確にしよう。そして、その姿に向かって、子どもが自ら「学びの実感」を積み重ねていけるように、学びの過程を見通し、単元をデザインしよう。



## 一人一人の子どもの学びの姿に目を向ける

単元の中のその時その時で、子どもが何に気付き、何に迷い、何を考え、どこに向かおうとしているかを捉えよう。そして、単元の学びを終えた子どもの姿と結び付けて、次への働きかけを考えよう。

## 一人一人に目的意識や必要感をもたせる

「あれ、何でだろう」「やってみよう」「困ったな」「前にやったことが使えそう」「次はこうしてみたい」など、子どもの問いや思いを大切にしよう。そして、単元を通して子どものときどきわくわくする気持ちをつなげていこう。

子どもの学びの過程を見通して、自ら学び続ける子に…